

令和6年度 日本大学危機管理学部 個人研究費 研究実績報告書

所属：危機管理学部 危機管理学科

資格：教授

氏名：木村 敦

研究課題名	リスク認知の特性に関する心理学的研究
研究目的及び 研究概要	リスク認知に関しては、楽観バイアスをはじめとして様々なバイアスがあることが知られている。このようなリスク認知の特性やバイアスの把握は、危機管理領域の実務や教育、環境設計においても重要である。申請者は、危機管理領域に関するテーマ（防犯、防災、避難、ヒューマンエラー等）を題材として、リスク認知がどのように危機管理に関わるかについて理論的・実証的に示す研究を継続的に実施している。令和6年度はリスク認知を踏まえた犯罪予防対策に関する検討、危機遭遇時の認知特性とケアに関する検討などを進める。 実証的な検討を行うに際しては、申請者らがこれまでに実施したリスク認知、危機管理教育、災害対応を考慮した建築計画等を題材とした調査研究で取得済のデータを用いて、リスク認知の特性について客観的な検証を行う。また、文献調査を行う中で研究テーマに関する新規性のある論説のアプローチを見出した場合は、文献資料に基づく研究も適宜取り入れることとする。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	まず、令和5年にSNS型投資・ロマンス詐欺の被害認知件数・被害額が大幅に増加したことを受け、これらの詐欺被害に関わるリスク認知特性について検討することとした。研究課題の特性を踏まえて文献調査とし、楽観バイアスやサンクコスト効果をはじめとして、SNS型投資・ロマンス詐欺の欺罔プロセスにおいてそれぞれどのような認知特性が関与するといえるかについて論じるとともに、それらの認知特性を考慮した対策について提案した。これらの成果を『危機管理学研究』に論文として発表するとともに、テレビや新聞、WEBメディア等の取材にも積極的に対応し、被害防止の啓発に努めた。 次に、災害対応に関して、令和6年能登半島地震を踏まえ、大規模地震被災時の被災者の認知特性とその心理的ケアについて、現状と課題について文献調査により整理した。とくに今後は各自治体で在宅避難想定が増加することを見据え、在宅避難者に対する心理的ケアの提供拡大に関する提言を行った。これらの成果を『危機管理学研究』の特集「能登半島地震から1年 ―災害対策の現在地―」に論文として寄稿した。 また、令和5年度から実施している神奈川県都筑警察署と木村ゼミナールとの協働において「地域住民の体感治安・犯罪予防行動」に関する調査の実施と分析を研究課題の一環としても進めた。その成果の一部を令和6年第4回都筑警察署協議会で報告し、その功労に対し感謝状を授与された。当調査については、多数の調査項目を測定しており多彩な分析が可能であることから、次年度以降の個人研究課題でも引き続きデータ解析を進める予定である。